

4 花植木

(1) きく [農薬登録情報](#)

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
さし木の発根促進及び発生根数の増加	オキシベロン液剤 (インドール酪酸)	1 浸漬はさし穂基部2～3cmとし、所定時間浸漬する。 2 さし穂は健全な親株からよく充実した枝を選び、葉付のさし穂は、さし穂の基部1/3にある葉を除き使用する。
開花抑制	エスレル10 (エテホン)	1 まきむらのないように均一に散布する。 2 老化苗には使用しない。
・節間の伸長抑制 ・花首の伸長抑制 (切り花用)(施設栽培)	ビーナイン顆粒水溶剤 (ダミノジッド)	1 施設栽培で使用使用する。 2 銅製剤との混用、近接散布は薬害を起こすので避ける。銅製剤散布後の使用は1カ月以上の間隔を空けて使用する。 3 銅製剤を使用した容器や散布器具は十分洗浄してから使用する。

ア きく (ポットマム)

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
節間の伸長抑制(矮化)	スミセブンP液剤 (ウニコナゾールP)	1 本剤の使用薬量が多くなるほど開花時期が遅れる傾向があるので留意する。

(2) カーネーション [農薬登録情報](#)

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
さし木の発根促進及び発生根数の増加	オキシベロン液剤 (インドール酪酸)	1 浸漬はさし穂基部2～3cmとし、所定時間浸漬する。 2 さし穂は健全な親株からよく充実した枝を選び、葉付のさし穂は、さし穂の基部1/3にある葉を除き使用する。
側芽発生促進	ビーエー液剤 (ベンジルアミノプリン)	1 側芽の発生を促す節位を中心に散布する。 2 同一節位への本剤の連続散布は、側枝発生過多、黄変、草丈抑制等の薬害を生じる場合があるので避ける。 3 高温時に散布すると、葉に黄変、褐変等の薬害を生じる場合があるので、注意する。 4 品種、栽培条件によって、薬害を生じる場合があるので、予め安全を確認の上使用する。

(3) シクラメン [農薬登録情報](#)

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
開花促進	ジベレリン液剤 (ジベレリン) ジベレリン、ジベレリン粉末 (ジベレリン) ジベラ錠 (ジベレリン) ジベラ錠5 (ジベレリン)	1 9月中、下旬に、花蕾を含む芽の中心部に散布する。 2 高温時に散布すると薬害が発生する。
開花抑制	エスレル10 (エテホン)	1 生育不良株に用いた場合、生育抑制、開花数が減少することがあるため使用しない。 2 本剤の最終散布日は7月下旬～8月下旬とする。 3 処理時期が遅れると出荷時の開花数が減少するおそれがあるため、最終散布は出荷を希望する90～120日前を目安とする。
花梗・葉柄の伸長抑制 (施設栽培)	ビーナイン顆粒水溶剤 (ダミノジッド)	1 施設栽培で使用使用する。 2 複数回処理する場合は、必ず花芽揃期に1回散布し、散布間隔を1カ月程度空ける。 3 花梗再伸長時の処理では、花卉の小型化や開花の遅延などの薬害が生じるおそれがあるので注意する。 4 銅製剤との混用及び近接散布は薬害を起こすので避ける。銅製剤散布後に使用する場合は1カ月以上の間隔を空けて使用する。 5 銅製剤を使用した容器や散布器具は十分洗浄してから使用する。

(4) ストック [農薬登録情報](#)

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
開花促進	ビビフルフロアブル (プロヘキサジオンカルシウム塩)	1 多量散布や重複散布は苗の品質に影響する場合がありますので避ける。 2 花芽分化の時期(10月頃)に高温にすると開花異常が引き起こされるおそれのある品種(アイアンチェリー等)では、この影響が助長されるおそれがあるため使用を避ける。

(5) パンジー [農薬登録情報](#)

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
茎葉の伸長抑制による小型化	スミセブンP液剤 (ウニコナゾールP)	1 栽培条件や、使用時期などによって定植後の回復、開花率や開花時期、花径等への影響がでる場合がありますので、留意する。
節間の伸長抑制 (施設栽培)	ビーナイン顆粒水溶剤 (ダミノジッド)	1 施設栽培で使用する。 2 パンジーに使用する場合、1回目は鉢上げ後1週間後を目安に散布し、以後は1週間程度の間隔で散布する。 3 銅製剤との混用及び近接散布は薬害を起こすので避ける。銅製剤散布後に使用する場合は1カ月以上の間隔を空けて使用する。 4 銅製剤を使用した容器や散布器具は十分洗浄してから使用する。

(6) ポインセチア [農薬登録情報](#)

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
節間の伸長抑制(矮化)	スミセブンP液剤 (ウニコナゾールP)	1 本剤の使用薬量が多くなるほど開花時期が遅れる傾向があるので留意する。

(7) ハイドラングア [農薬登録情報](#)

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
節間の伸長抑制 (施設栽培)	ビーナイン顆粒水溶剤 (ダミノジッド)	1 施設栽培で使用する。 2 銅製剤との混用及び近接散布は薬害を起こすので避ける。銅製剤散布後に使用する場合は1カ月以上の間隔を空けて使用する。 3 銅製剤を使用した容器や散布器具は十分洗浄してから使用する。

(8) つつじ類(鉢栽培) [農薬登録情報](#)

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
節間の伸長抑制(矮化)及び着蕾数増加	スミセブンP液剤 (ウニコナゾールP)	1 本剤の使用薬量が多くなるほど開花時期が遅れる傾向があるので留意する。